



問 第4次大木町総合計画は行財政運営の設計図と言われているが、その成果と反省を問う

答 残された課題を次の施策に反映

問

第4次総合計画が今年度最終年にあたり、新しい5次計画が策定されている。行財政運営に当たっては4次総合計画に沿って、最大の努力が払われてきたことに敬意と感謝を申し上げる。

循環型社会の形成など絶大なる成果を遂げられている反面、3次総合計画から今日まで積み残されてきた分野もある。そこで4次総合計画の成果を総括し、5次計画にどのように反映される計画か伺う。

基盤整備

土地利用計画、農業振興のエリアと都市的利用のエリアの区分については手付かずのままであるが。

町長

土地利用については、平成20年3月に準都市計画区域を導入したが、国土利用計画法に基づく土地利用計

問

画については、策定出来なかった。しかし、今後は、平成21年12月に農地法や農業振興の整備に関する法律が改正されたことにより、無秩序な開発に歯止めがかかり、優良農地の確保に向けて規制が強化されたことなどから、本町の土地利用における最大の課題である虫食いのない発が規制できるのではないかと考えている。(Eランク評価)

第4次総合計画達成度評価のランク
(計画期間10年のうち8年を経過した時点)

達成度評価	実施率
Aランク	ほぼ100%
Bランク	75%程度
Cランク	50%程度
Dランク	25%程度
Eランク	25%以下

問

歩いて暮らせる町づくり、バリアフリー化は。

町長

役場庁舎、複合文化施設等公共施設では段差の解消やエレベーターの設置など概ね整備されたが、これらを結ぶ道路においてバリアフリー化が遅れている。(Cランク評価)

生活環境の整備

問

公園の整備：親水公園、ミニ公園、サイクリング道路などの整備が施策として提案されていたが。

町長

親水公園として大溝小学校に水辺公園を整備したが、ポケットパークやサイクリング道路については、公園化できる場所が限定され、用地の確保が困難であることなどから着手しなかった。(Dランク評価)

問

クリークの整備・保全特に集落内の身近なクリークの浄化、浚渫事業が一部遅れていると思うが。

町長

県営クリーク防災機能保全対策事業や基幹水利施設管理事業、農地水環境保全対策事業などの取り組みにより、水路法面の整備や住民による除草等の管理作業が行われたが、集落内のクリーク浚渫については、浚渫土置場の確保や財政上の課題などから進んでいないのが現状である。(Bランク評価)

問

住宅の整備、老朽化した町営住宅の対応は。

町長

民間開発が旺盛であったことから公営住宅の整備を見送った。町営住宅(10戸)に関しては、居住者へのアンケート調査を行っており、個人への払い下げ希望が多かったことを踏まえて、今後検討していく。(Cランク評価)